


地域共創型XRまちづくり PARALLEL CITY

取組開始時期	2021年3月	取組の カテゴリー	地域活性化	応募部門 (○を付ける)	PF会員間連携部門	<input type="radio"/>	一般部門
1. 団体名	大日本印刷株式会社		2. 連携先の 団体	一般社団法人渋谷未来デザイン、宮下公園パートナーズ ◎札幌市、札幌駅前通まちづくり会社			
3. 取組 目的	リアルとバーチャルの融合による新たな地域創生モデルづくり			4. 関連する ゴール			

5. 取組経緯

ニューノーマルの構築が進むなか、時間や距離による制限を受けない仮想空間を活用したサービスが拡大。また、IoTなどを活用して現実の情報をリアルタイムに仮想空間に反映し、リアルとバーチャルの2つの空間を鏡像のように存在させる「ミラーワールド」のサービスも誕生している。当社の強みである表現技術と安全・安心に大量の情報を処理する能力、地域創生事業を通じて培ったノウハウやネットワークなどを活かし、安心安全で多様性に富む、地域共創型のバーチャル空間を構築し、地域創生につながる新たな取組として事業を推進。

6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

地域と連携して、実在する場所のバーチャル空間を作成。リアルとバーチャルの融合により、地域創生につながる事業を推進。札幌市北3条広場と渋谷区立宮下公園、2拠点のバーチャル空間をリリースした。

地域共創型XRまちづくり

PARALLEL CITY

取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

- ・自治体や施設オーナーと共創型の取組み
- ・バーチャル空間は、誰もが訪問したり、イベントが開催できたりするより開かれた場所として機能することによって、共創が生まれる場、関係人口の創出につながる。

ステークホルダーとの連携

- ・一般社団法人渋谷未来デザイン、札幌市→自治体やまちづくり事業者としてDNPと一緒に地域のXR化を企画、検討
- ・宮下公園パートナーズ、札幌駅前通まちづくり会社→場所の指定管理者としてバーチャルと連携した取組を企画、協力。

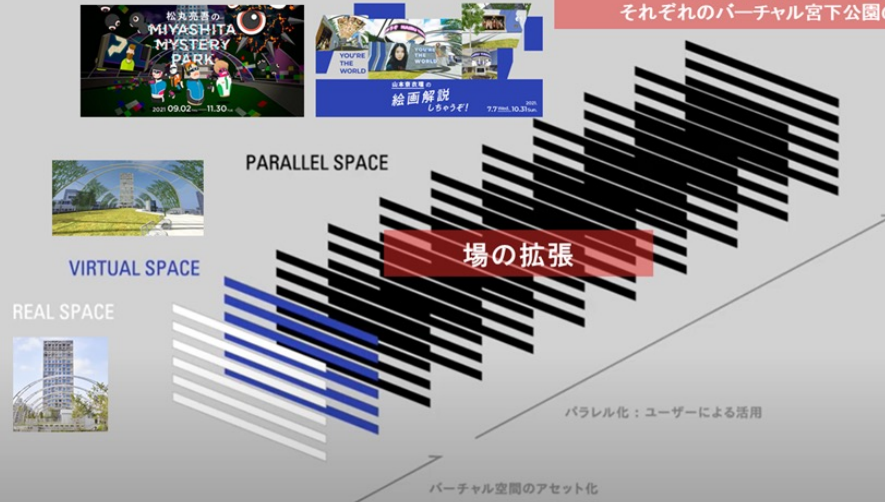
モデル性・波及性

- ①自治体や施設オーナーと連携した取組にすることで、共創型のバーチャル空間を構築。
- ②リアルだけが盛り上がるのではなく、リアルとバーチャルを融合させ、バーチャルの賑わいや利益をリアルに還元する取組を推進中。
- ③バーチャル空間は複製可能。誰もが自分のバーチャル地域を持てる。

7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

PARALLEL CITYのコンセプト

誰もが空間オーナーになって
それぞれのバーチャル宮下公園の構築が可能



実在する場所をバーチャル化。複製可能な高精細CGアセットを作成し、シーンや用途に応じたバーチャルイベント実施やオリジナルのバーチャル空間の制作が可能。場所がバーチャルに拡張するだけでなく、ウェブ上でも様々なバーチャルイベントが同時多発的に存在することで、場所がリアル・バーチャルに平行に広がり、新しい場所の活用に繋がります。

展開エリア

札幌



札幌市北3条広場の指定管理者である札幌駅前通まちづくり株式会社と連携し、リアルとデジタルの連携による新たなエリアマネジメント活動を目指す。文化・観光・スポーツといった地域の魅力を利用者との共創によって高め、国内外へ広く発信することで、都市空間の魅力・価値の向上を目指す。

渋谷



一般社団法人渋谷未来デザイン、宮下公園パートナーズと連携しながら、開かれた文化・カルチャー発信拠点として、渋谷区の価値を高めると同時に、公園の高度利用を実現に向けて、実証実験を開始。（2021年7月～）